

短期大学生の男女共同参画意識 — 質問紙調査に基づいて —

東福寺 一郎

A Consciousness on Gender Equality of Junior College Students

Ichiro Tofukuji

I. はじめに

国において男女共同参画社会の実現は 21 世紀の最重要課題の 1 つと位置づけられ、1999 年に基本法が制定された。それから 10 年近くが経とうとしているが、この間、全国の各自治体では程度の差こそあれ、男女共同参画に向けての取り組みがなされてきた。三重県においても、2000 年に男女共同参画推進条例が公布された。その前文において、

『21 世紀を迎え、私たちが目指す社会は、すべての人々の人権が保障され、一人ひとりが、性別にかかわらず、自立した個人として、その能力と個性を十分に発揮することができる社会であり、それぞれに多様な生き方が認められる社会である。そして、その社会は、男女が対等な立場で、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合う男女共同参画社会である。

また、少子高齢化、国際化及び高度情報化の進展をはじめとする急激な社会経済情勢の変化に対応するために社会構造の変革が求められているが、新しい社会構造の前提となり、基礎となるものが、男女共同参画社会である。

三重県では、「人権が尊重される三重をつくる条例」を制定し、不当な差別をなくし、人権が尊重される社会の実現を図ることを明らかにするとともに、男女共同参画を推進するための計画を策定し、様々な取組を行ってきたところであるが、現状においては、男女の性別による差別及び固定的な役割分担意識並びにこれらに基づく制度及び慣行が根強く存在し、男女平等の実現や男女共同参画の推進を妨げる要因となっている。

このような認識から、三重県は、「男女共同参画社会基本法」の理念を踏まえ、男女共同参画社会を実現することが重要かつ緊急の課題であると位置づけ、その社会の実現のために、県民、事業者及び市町村と協働して、総合的かつ計画的に取り組むことを決意して、この条例を制定する。』(三重県男女共同参画条例、2000)

と謳われている。

各種施策と平行して、国民を対象とした意識調査も数多く実施され、2004 年に行われた世論調査においてはじめて「男は仕事、女は家事」という固定的性別役割分担に反対であるという回答が賛成を上回った。筆者も過去に津市民や大学生を対象に男女共同参画もしくは男

女平等に対する意識や実態調査を行い（東福寺、2000、2001、2003a、2003b。なお、2003年の2つの報告について、以後「前回調査 a」「前回調査 b」、今回の調査については「今回調査」という。）、前回調査においては、学生、市民ともに男女共同参画に向けての意識が少しずつ変わりつつあることを指摘した。

今回調査は三重短期大学の学生を対象に、職場・学校・家庭・地域社会における男女平等感や固定的性別役割分業に対する考え方、異性との交際における価値観などを中心にアンケート調査を実施し、前回の調査結果との比較を通じて、若い世代の意識や実態の変化について検討することを目的としている。

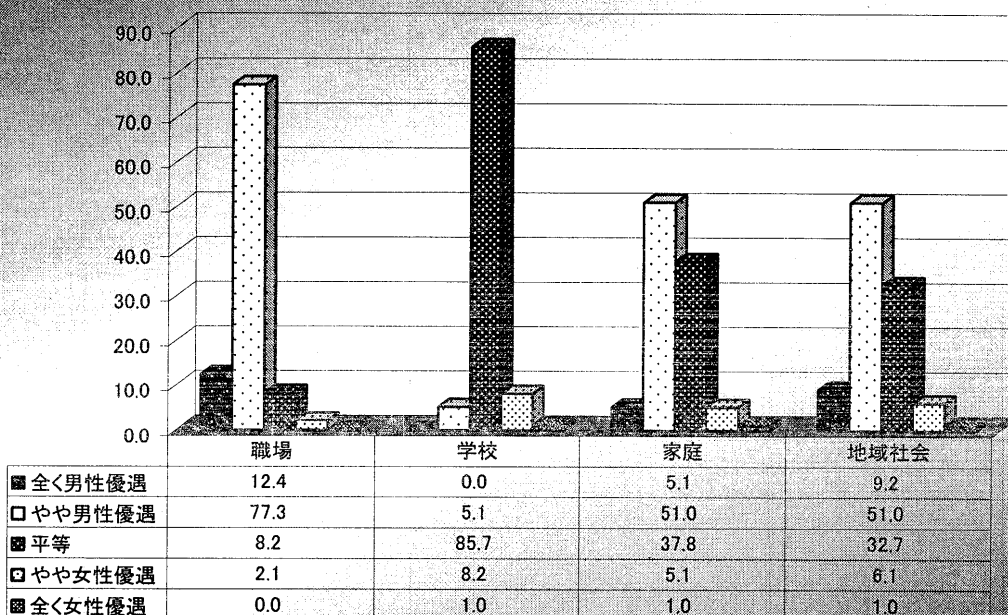
II. 方法

三重短期大学において筆者が担当している「発達と学習」の講義中に質問用紙を配布し、講義時間内に回収を行った。法経科第一部・生活科学科生については12月21日（金）、法経科第二部生については12月25日（火）に実施した。回答者総数は111名であったが、第二部生の中には男性や既婚の学生が含まれており、回答者の属性の均一化を図るために、全体の分析にあたっては未婚女性98名を対象とする。

III. 4つの領域（職場・学校・家庭・地域社会）における男女平等感

男女の待遇に関する現状認識について4つの領域に分けて尋ねた。「全く男性優遇」と「やや男性優遇」をあわせると、「男性優遇」という回答は、職場では89.7%、家庭では56.1%、地域社会では60.2%であり、学校の5.1%を除くと、全体的に男女不平等感が根強いといえる（図1）。前回調査 a における女子学生の回答を見ると、「平等である（性別による差はない）」という回答は職場で6.7%、学校で76.7%、家庭で20.0%、地域社会で35.6%

図1 4つの領域における男女平等感(単位%)

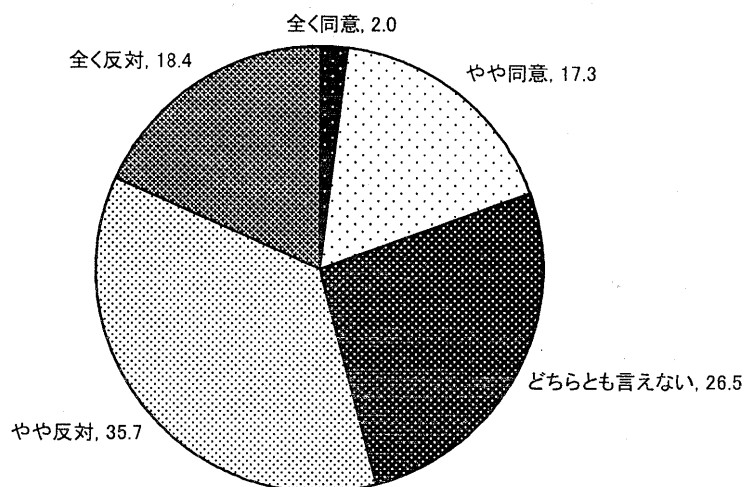


であったので、今回調査では、職場、学校、家庭における男女平等感が増加し、地域社会についてはわずかに減少した。学校においては「女性優遇」が「男性優遇」を上回っているが、これは前回調査 a においても同様であった。なお、内閣府が平成 19 年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」(内閣府、2007。以後、内閣府調査という。)によれば、職場において「平等」と回答した人の割合は 23.9%、学校については 63.4%、家庭については 42.0%、地域社会に相当する「社会通念・慣習・しきたり」については 20.2%であった。

IV. 性別役割分業観

男女共同参画についての意識を尋ねる際にしばしば使用される質問項目が「男は仕事、女は家事・育児」という考え方への賛否を問うものである。今回調査では「男性は仕事をし、女性は家事・育児をするのが自然な姿である」という表現で固定的性別役割分業観について賛否を問うた。結果としては、「全く同意する」「やや同意する」を含めた賛成意見が 19.3%、「全く反対である」「やや反対である」を含めた反対意見が 54.1%となった(図2)。前回調査 a における女子学生の回答では、「賛成」が 13.3%、「反対」が 73.4%であったため、今回調査では「賛成」が 6 ポイント増加し、「反対」が大きく減少している。質問表現に「自然な姿」という文言を入れることにより、建前ではなく本音が出るように配慮したのであるが、このことが回答結果に影響した可能性がある。同時に、「どちらとも言えない」と判断を保留した学生が 26.5%に及ぶことも注目すべきことである。内閣府調査では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか」と尋ねており、その考えに対する「賛成」は 44.8%、「反対」は 52.1%であった。ちなみに、今回調査の回答者に近い 20 代女性に限定すると、「賛成」40.2%、「反対」57.6%である。

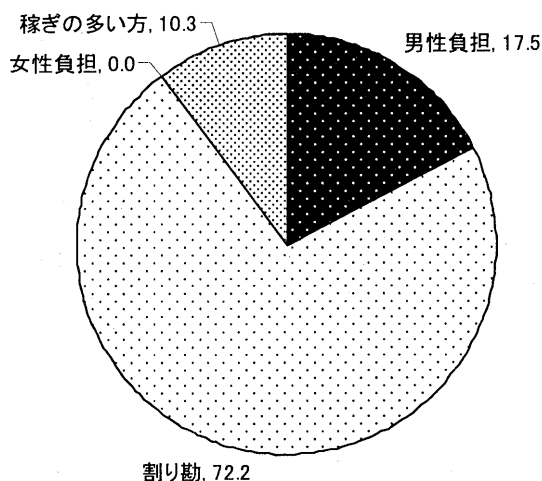
図2 固定的性別役割分業観(単位%)



V. デート費用の負担について

一定年齢以上の男女にとっては、デートしたときの費用は男性が持つことが一般的であり、それが「男らしさ」の表現の1つでもあった。しかし、学生に尋ねてみると、近年は「デートは割り勘」が常識となりつつある。このことは前回調査bにおいて「割り勘」とする回答が過半数であったことから確認されている。その傾向がさらに強まっているのかどうかを知るためにこの質問項目を設定した。その結果、「割り勘」は72.2%と多数を占めた(図3)。前回調査bにおける女子学生の回答では「割り勘」は55.4%であったので、若い世代のデートにおいては「割り勘」が定着したと言えるだろう。また、「稼ぎが多い方」という合理的な考えも1割の学生に支持されているが、前回調査bでは「余裕のある方」は7.1%であった。

図3 デート費用の分担(単位%)



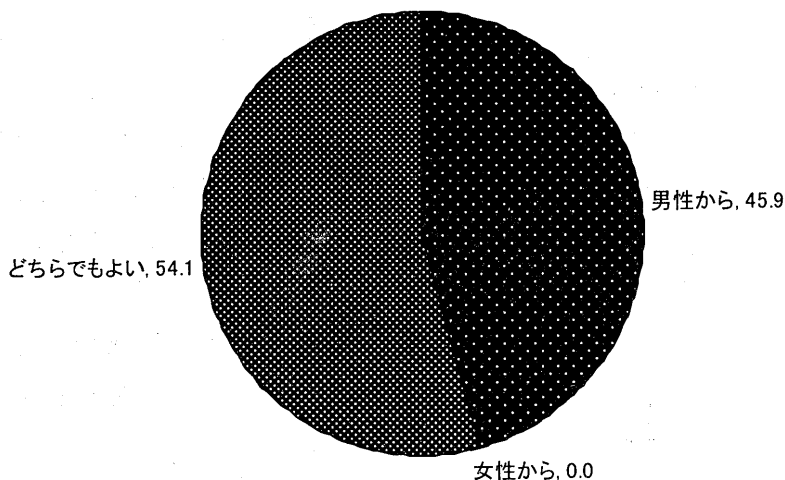
VI. プロポーズについて

前項目と同様に、かつては男性がプロポーズすることが一般的であり、女性は「女らしく」あるために、自ら告白するケースは稀であったと考えられる。この点についても、近年の学生の意識は変化しつつあると思われる。回答結果を見ると、「女性から」という回答はなかったが、「男性から」は45.9%と半数に達せず、「どちらでもよい」が54.1%と最も多かった(図4)。

VII. 異性に求めるもの

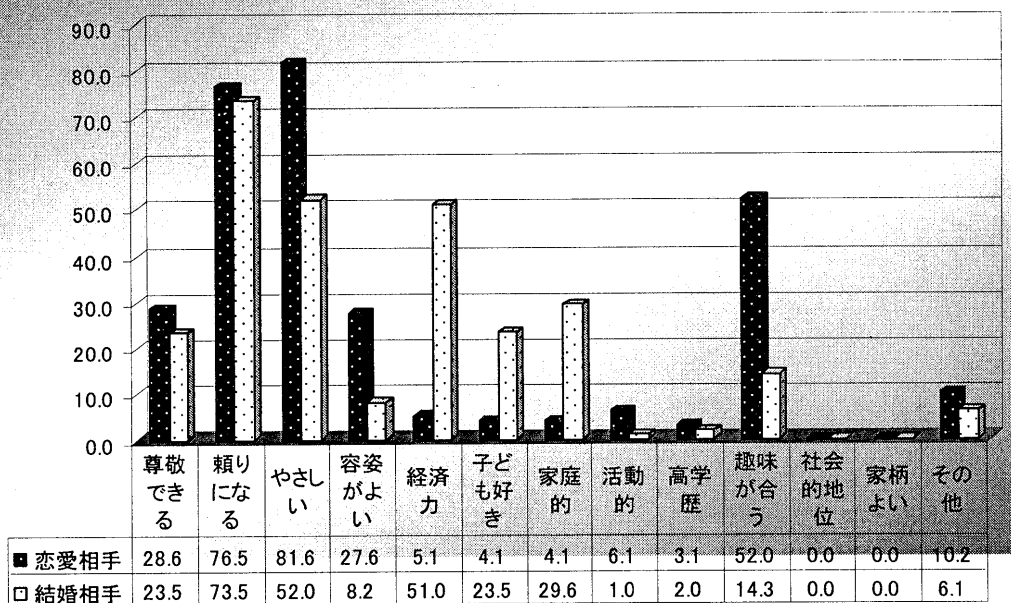
ここでは、恋愛相手と結婚相手に分けて、異性(この場合は男性)に何を求めるかについて3つまでの複数回答で尋ねた。その結果、恋愛相手に求めるものとしては、「やさしい」81.6%、「頼りになる」76.5%、「趣味が合う」52.0%の順で回答が多かった(図5)。前回調査bでも、「やさしい」76.3%、「頼りになる」74.2%、「趣味が合う」54.6%とほぼ同じような数値で同順位であった。一方、結婚相手に求めるものとしては、今回調査では「頼りになる」73.5%、「やさしい」52.0%、「経済力」51.0%の順であるが、前回調査bでは「頼りにな

図4 プロポーズはどちらから(単位%)



る」71.1%、「経済力」56.5%、「やさしい」48.1%と順位に違いがあった。恋愛相手に多く、結婚相手には少ない項目としては「やさしい」「容姿がよい」「趣味が合う」があり、逆に結婚相手に多く、恋愛相手には少ない項目としては「経済力」「子ども好き」「家庭的」がある。以上のことから、女子学生が恋愛と結婚をある程度分けて考え、結婚相手としては仕事をし経済的に家庭を支えつつ、一方で仕事中毒ではなく、家庭も顧みて、子どもの世話を共にする男性を求めていることがわかる。

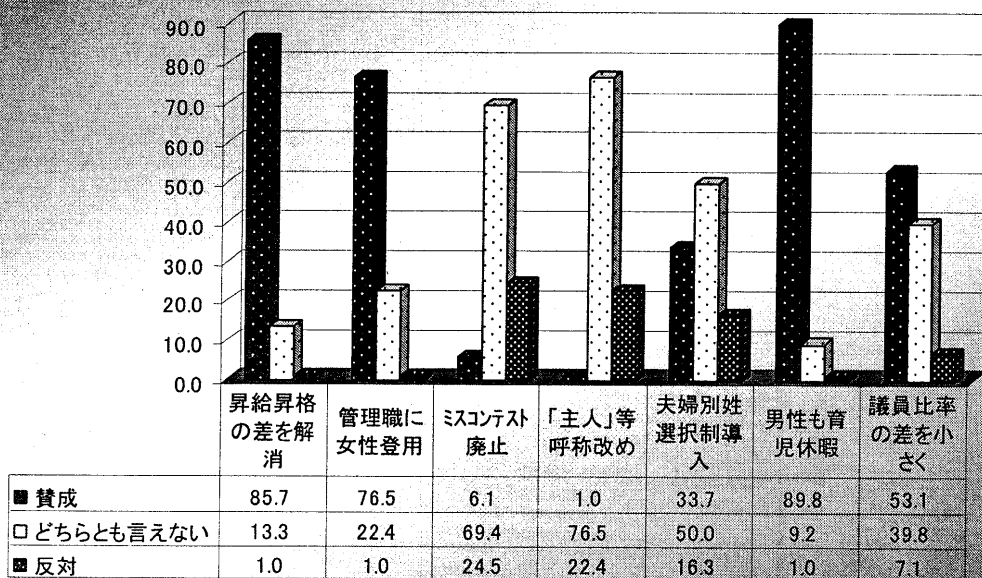
図5 異性に求めるもの(恋愛相手vs結婚相手) (単位%)



VIII. 男女平等のために必要であると思うこと

先に見たとおり、学校を除いては、今なお「男性優遇」であり、男女平等に至っていないと学生たちは考えている。では、男女平等を実現していくために、どのような条件を整えていくことが必要なのであろうか。ここでは、「昇給昇格で差をつけない」「管理職に女性を登用する」「ミスコンテストを廃止する」「ご主人、奥さんという呼称をやめる」「夫婦別姓選択制を導入する」「男性の育児休暇取得を促進する」「議員の男女の比率を 6：4 以上に開かないようにする」という点について尋ねた。その結果、「昇給昇格」「管理職」「育児休暇」「議員比率」については「賛成」という回答が 50%を上回った。一方、「夫婦別姓」「ミスコンテスト」「夫婦の呼称」については「賛成」意見が少なく、とりわけ「呼称」と「ミスコンテスト」については 1 割に満たない値であった。すなわち、公的な側面では男女平等に近づけていくことに賛成するが、夫婦のあり方など私的な側面については現状を肯定もしくは判断できないという立場を取る学生が多い。

図6 男女平等を実現するために(単位%)



IX. 結婚について

将来の結婚については、「絶対結婚したい」35.7%と「よい人がいれば結婚したい」40.8%をあわせると、気持ちの強さに差はあるものの、ほぼ4人に3人の割合で結婚したいと考えていることがわかる。一方、「したいと思わない」と強く否定している回答は6.1%であった(図7)。

「絶対結婚したい」「よい人がいれば結婚したい」と回答した人を対象に、結婚後の就労について尋ねたところ、「子どもができて働く」が24.3%、「子どもができたらいったん退職し、子育てが終わったら再就職する」が70.3%であった。この結果は、日本女性に特有であるM字型就労構造が引き継がれていく可能性を示唆するものである。

図7 結婚の意思(単位%)

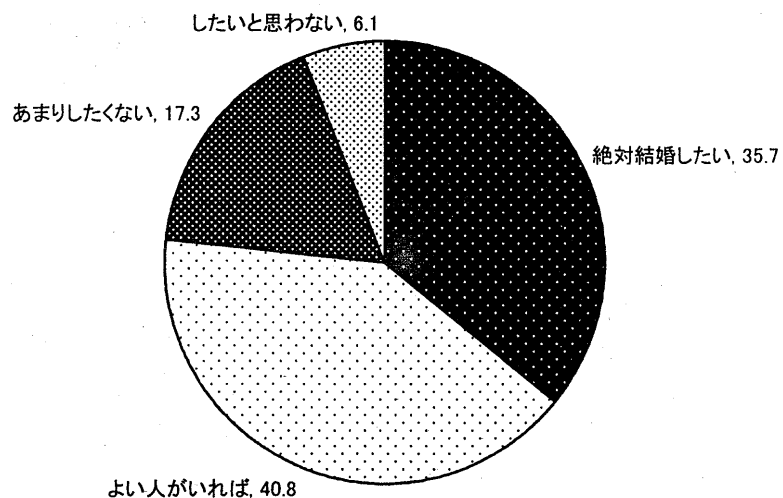
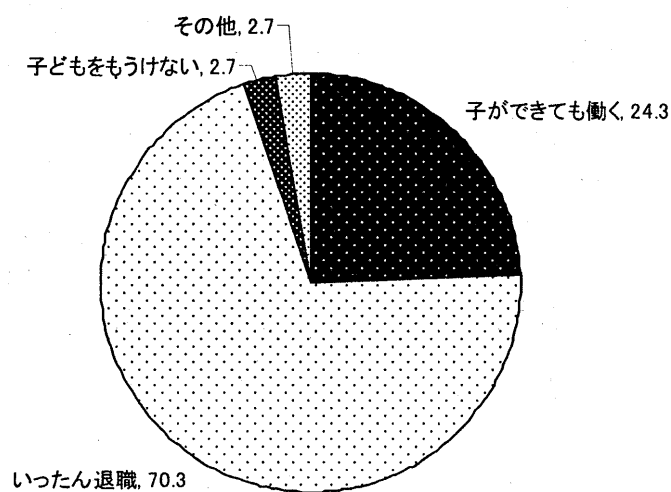


図8 結婚後の就労について(単位%)



X. まとめ

内閣府調査などと比べると、今回調査では、本学女子学生に「職場は男性優遇」という意識がきわめて強いことがわかる。職場の現状が男女平等であると主張するものではないが、一般成人よりも学生に不平等感が強いということは、まだ就職をしていない学生が周囲の大人や各種メディアからの情報によって、「職場は男性優位である」というイメージを極端にステレオタイプ化しているためではないかと考えられる。一方で、学生は「男女平等」であることの大切さを建前では理解しているが、異性すなわち男性に対し、「頼りになること」や「経

済力」を求めたり、結婚後は「子どもができれば退職し、子育てが終わったら再就職したい」と考えるなど、固定的性別役割分業を前提に社会的、経済的には男性に依存してきた旧来型の女性の生き方やあり方を本音の部分で認めているように思われる。先述の通り、内閣府調査では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対し、全体では反対意見が賛成意見を上回っているが、女性の年代別で見ると、30代から50代までは「賛成」が3割台、「反対」が6割台であるのに対し、20代では「賛成」が4割台、「反対」が5割台と、60代以上の回答に近く、若い世代の保守回帰傾向とも捉えうる結果となっている。男女共同参画に対する若い世代の共感が弱まりつつあるのか、それとも学生であるが故に男女共同参画をまだ実感として理解できないためなのか、この点についての吟味も必要であるが、一人ひとりの生き方の多様性を保障し、少子高齢社会を解消していくために、男女共同参画社会の実現が不可欠であることを学校教育段階からさらに積極的に伝えていくことが大切である。

引用文献

三重県 2000 三重県男女共同参画推進条例

<http://www.pref.mie.jp/IRIS/plan/jourei.htm>

内閣府大臣官房政府広報室 2007 男女共同参画社会に関する世論調査

<http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-danjyo/index.html>

東福寺一郎 2000 津市民の男女平等意識に関する調査 地研年報 第5号 87-106

東福寺一郎 2001 男女平等意識に関する一考察—大学生と市民に対する意識調査に基づいて— 三重法経 第117号 69-77

東福寺一郎 2003a 男女平等意識に関する一考察(2)—大学生と市民に対する意識調査に基づいて— 三重法経 第121号 75-82

東福寺一郎 2003b 大学生のジェンダー・フリー観—学生意識調査をもとに— 地研年報 第8号 101-110

<付 録>

男女の在り方に関する意識・実態調査

あなたの男女の在り方に関する実態や意識についてお尋ねします。調査結果は統計的に処理し、研究目的以外には使用しませんので、ありのままにご回答くださいますようお願いいたします。

1. あなたは次のような場で男女平等が実現していると思いますか。該当するもの1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|-------|--------|--------|----|--------|--------|
| 1) 職場 | 全く男性優遇 | やや男性優遇 | 平等 | やや女性優遇 | 全く女性優遇 |
| 2) 学校 | 全く男性優遇 | やや男性優遇 | 平等 | やや女性優遇 | 全く女性優遇 |

3) 家庭 全く男性優遇 やや男性優遇 平等 やや女性優遇 全く女性優遇

4) 地域社会 全く男性優遇 やや男性優遇 平等 やや女性優遇 全く女性優遇

2. 「男性は仕事をし、女性は家事・育児をするのが自然な姿である」という考えについてどう思いますか。該当するもの1つに○をつけてください。

全く同意 やや同意 どちらとも言えない やや反対 全く反対

3. あなたがデートする場合、食事などの費用はどのようにするのがよいと思いますか。該当するもの1つに○をつけてください。

①男性が負担するのが好ましい

②割り勘にするのが好ましい

③女性が負担するのが好ましい

④稼ぎの多い方が負担するのが好ましい

4. プロポーズはどちらからするのがよいと思いますか。

①男性からするのが好ましい

②女性からするのが好ましい

③どちらからでもよいと思う

5. あなたはつきあう異性に何を求めますか。恋愛相手と結婚相手に分けて回答してください。

<恋愛相手> 順位をつけて3つまで選んでください(1位 ①、2位 ②、3位 ③)。

尊敬できること() 頼りになること() やさしいこと()

容姿がよいこと() 経済力があること() 子ども好きなこと()

家庭的なこと() 活動的なこと() 高学歴であること()

趣味が合うこと() 社会的地位があること() 家柄がよいこと()

その他() (具体的に)

<結婚相手> 順位をつけて3つまで選んでください(1位 ①、2位 ②、3位 ③)。

尊敬できること() 頼りになること() やさしいこと()

容姿がよいこと() 経済力があること() 子ども好きなこと()

家庭的なこと() 活動的なこと() 高学歴であること()

趣味が合うこと() 社会的地位があること() 家柄がよいこと()

その他() (具体的に)

6. 次のような提案にあなたは賛成しますかそれとも反対ですか。1つに○をつけてください。

1) 男女とも実力で昇給・昇格させる

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

2) 女性の管理職を増やす

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

3) ミスコンテストを廃止する

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

4) 「ご主人」「奥さん」という言い方をやめる

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

5) 夫婦別姓選択制を採用する

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

6) 男性も女性と同様に育児休暇を取ることを制度化する

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

7) 議員の男女比を6:4以上に開かないようにする

とても賛成 やや賛成 どちらとも言えない やや反対 全く反対

7. あなたは今の気持ちとして結婚したいと思いますか。また、結婚後はどうしたいですか。

<今の気持ち>

① 絶対結婚したい

② よい人がいれば結婚したい

③ あまり結婚したいと思わない

④ 結婚したいと思わない



<結婚後>についても回答してください

<結婚後>

① 子どもができてもしっかり働く

② 子どもが生まれるまで働き、子どもができたら仕事をいったん辞める

③ 結婚しても子どもはもうけない

④ その他 ()

*****ご回答ありがとうございました*****